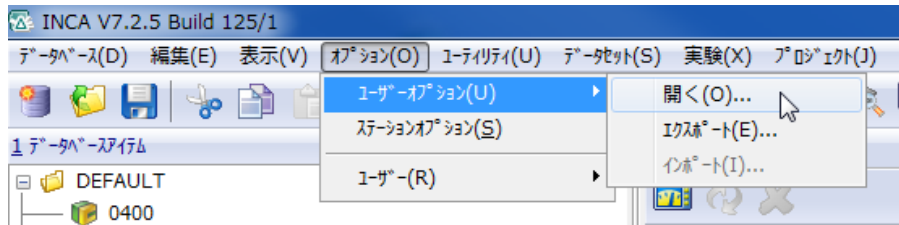
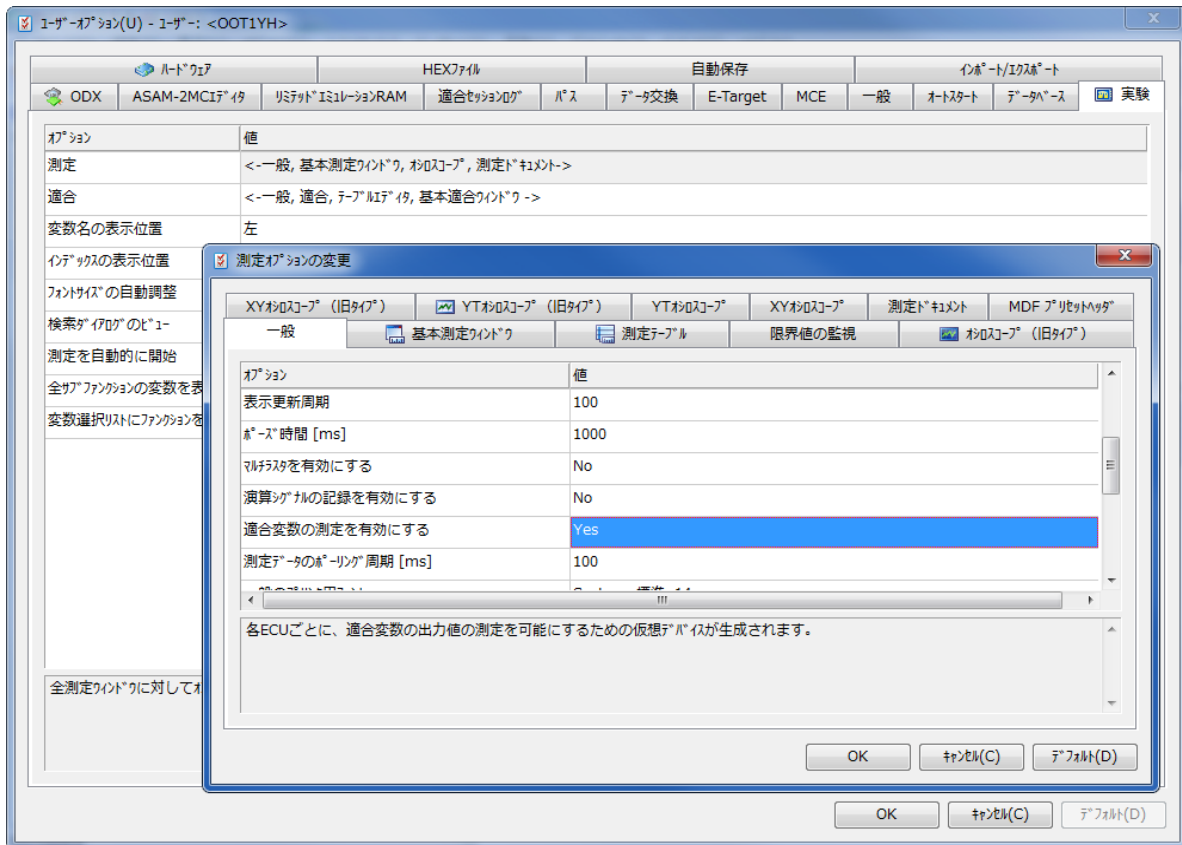


■ 適合変数の測定を有効にする方法

INCAのメイン画面から、オプション→ユーザーオプション→開くを選択



ユーザーオプション画面の実験タブから測定を選択ください、測定オプションウィンドウが開くので、一般タブの適合変数の測定を有効にするをYesにしてください。




上記設定変更後、実験画面は開きなおす必要があります。

● 適合変数の測定を有効にする

このオプションが有効になっていると、ハードウェアコンフィギュレーションに組み込まれている各制御デバイスの各適合変数(スカラー、カーブ、マップ)に対する仮想的な測定変数が生成され、適合変数の出力値(プロセスポイント)がその測定変数に代入されます。これにより、適合変数の出力値の変化を、同じラスタ内の測定変数とともに測定/記録することができます。

この設定を変更すると、変更内容は、次に実験を開いたときに適用されます。現在開いている実験に対して適用するには、実験を一度閉じてから再度開く必要があります。

Yes	すべての適合変数に対応する仮想測定変数が生成され、変数選択ダイアログボックスに表示されます。生成された変数の名前は、元の適合変数の名前に .Output というポストフィックスが付いたものです。変数選択ダイアログボックスでは、仮想変数には  シンボルが付きます。これらの変数は、一般の測定変数と同様に各種測定ウィンドウに割り当てることができます。
No (デフォルト)	適合変数に対応する仮想測定変数は生成されません。このオプションを No に変更して実験を開くと、すでに実験に割り当てられていた仮想測定変数は、すべて削除されます。

適法変数に対して、.out付の仮想変数が表示されますのでオシロに設定ください。

